



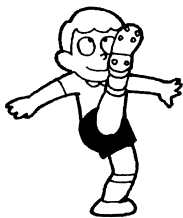
松本 紀史 議員

子どもや若者へ 「おしまめ支援策」 の充実を

サッカー専用競技場の設置促進について

問 将来の子ども達のために、サッカー専用競技場設置に取り組み考えはあるのか。

答 10月に市体育協会から、2面のコートを用意する競技場整備の要望があった。試算をする、駐車場なども含め約3万平方メートルが必要であり、場所や費用が課題となる。現在、市体育協会がサッカー協会と連携してプロジェクトチームを立ち上げ、候補地の選定や費用の調査研究を始め



たところである。この結果が固まった段階で関係団体と協議していく。

スキー学習におけるスキー用具のレンタル料やバス代などの支援体制について

問 中学校では12校の内4校がスキー学習を実施しているが、高山地区の4校はスキー学習を行っていない。その理由の一つに家庭の経済的な状況があるとのことだが、輝く未来の子ども達は、オリンピック選手も夢ではなく、多くを体験させて

あげてほしい。スキー用具のレンタル料金やバス代を支援する考えは。

答 スキー学習では、保護者にバス代やレンタル料、リフト代などを含め、5千円の負担をさせていただいているが、予算を組んでの支援は考えていない。

若者の定住促進について

問 若者の定住促進の重要性、必要性をどう考えているのか。

答 少子高齢化の進展や生産年齢人口の減少が進む中において、持続可能な事業を構築し、地域コミュニティの活性化を図るためには、若者の力は不可欠であると考えている。

問 若者の定住に向け、今後どう取り組むのか。

答 若者が豊かな地域資源を活用し、豊かな生活を送れるような地域社会の実現に向け、若者定住を積極的に促進していきたい。



杉本 健三 議員

高山市政クラブの 施策と予算要望

問 高山市政クラブ提出の施策と予算要望にどう対応するのか。

答 86項目の要望はできる限り予算に反映させていきたい。

問 行財政改革のさらなる推進はどうするのか。

答 職員の削減だけでなく、限られた予算の中で財源を有効に使うなど、今後も行財政改革に取り組んでいきたい。

問 合併して10年経ったが、全国で一番広い面積を持つ高山市であり、隅々まで気を配った行政を進めるためには支所は必要である。今後どうするのか。

答 細かなサービスをするのに支所は必要だと考えている。支所に相談窓口を設けて専門職員を配置したり、協働のまちづくりなどで対

応していきたい。

問 基幹相談支援センターはどうなるのか。

答 平成27年度から福祉部に福祉サービス総合相談支援センターを設置し、より総合的な窓口として、有資格者があらゆる障がい児者などの相談に応じていく。

問 合併して10年目を迎えた今、新たな観光ビジョンを策定してはどうか。

答 第八次総合計画を踏まえ、観光のまちづくりをわかりやすい形で取りまとめ策定したい。

問 一位一刀彫などの地域伝統工芸や地域伝統芸能などの後継者の育成に力を注ぐべきでないか。

答 地域伝統工芸や地域伝統芸能は、ともに重要だと考えている。後

継者育成には今行っている制度を継続していきたい。

問 協働のまちづくりは無理のないように全域で推進されたい。

答 広く市民の意見を聴き、随時改善を加えながら進めていきたい。地区ごとに事情があるので、完璧なスタートはできない。市としては財政や人的支援を行いたい。また、各地区の代表者による意見交換の場を設けたいと考えている。

問 8月17日に起きた豪雨災害の復旧の進捗状況は。

答 豪雨災害で被害に遭った公共土木施設212か所について、道路や公園などは平成27年度末、橋は平成28年度末までに工事を終えたい。

